

## Books, Bytes and Bridges

熊本大学附属図書館  
加藤 信哉

本書はアメリカの大学における図書館とコンピュータ・センター<sup>1)</sup>との関係についての20篇の論文を収めた論文集である<sup>2)</sup>。アメリカの大学ではこの20年にわたって図書館とコンピュータ・センターの連携や再編等が断続的に行われてきた。序文でRiggsが述べているように先行する優れた類書<sup>3)</sup>はあるにせよ本書はこのトピックを網羅的に取り扱った最初の図書であることに間違いはない。収録している論文の題名と著者は次のとおりである。

- ①図書館とコンピューティングの関係についてのレトリックと現実の歴史  
(Peggy Seiden / Michael D. Kathman)
- ②メタファー探求の課題：図書館とコンピュータ・センターの結婚可能性についての論文選  
(Robert S. Freeman / Scott B. Mandernack / John Mark Tucker)
- ③最高情報責任者 (CIO) の地位の組織面と歴史面からの位置付け (Terrence F. Mech)
- ④図書館とコンピュータ・センターの統合：暗示と禁忌 (Raymond K. Neff)
- ⑤学術コミュニケーション・センターは機能しているか：図書館とコンピュータ・センターとの協力の評価 (Delmus E. Williams / Onadell Bly)
- ⑥関係の進化：小規模大学における図書館とコンピュータ・センターの役割の交差と非交差  
(Paul J. Setze / Kimberly A. Jordan)
- ⑦文化破壊：情報過多における図書館とコンピュータセンターとの共住について  
(Edward D. Garten / Delmus E. Williams)
- ⑧小規模大学におけるコンピュータ・センターと図書館の関係 (Larry Hardesty)
- ⑨統合サービスと非統合サービス：ウイスコンシン大学システムにおける図書館とコンピューティング (Edward Meachen)
- ⑩図書館・コンピュータ・センターの関係についての概念基盤 (Stephen Peterson / Bernard Hecker)
- ⑪サービスへの衝動：小規模学術機関における図書

館とコンピュータ・センター統合の事例研究  
(Eugene A. Engeldinger)

- ⑫コネティカット大学：従来の組織図の枠外での作業 (Connie V. Dowell / Andrew W. White)
- ⑬統合コンピュータ・図書館サービスのモデルを目指して (John N. Olsgaard / George D. Terry)
- ⑭ウエイク・フォレスト大学：先駆者とパートナー (Rhoda K. Channing / Jay L. Dominick)
- ⑮利便性のある連携：情報送付ニーズへの適合 (Jennifer Cargill / Ronald D. Hay)
- ⑯サービスと案内：戦略的焦点  
(Sue Samson / Kim Granath / Vicki Pengelly)
- ⑰ゲティスパークの経験 (Robin Wagner)
- ⑱教育大学におけるコンピュータ・センターと図書館：情報技術の再構築におけるマネジメント理論の応用 (Theresa C. Trawick / Jeffrey T. Hatt)
- ⑲コミュニティ・カレッジにおける将来の情報技術サポートのパートナーシップ (Adella Blain)
- ⑳新しい学習環境の創造 (David W. Lewis / Georgia B. Miller)

20篇の論文のうち9篇 (①, ③~⑨, ⑳) は歴史面, 理論面からの考察, 10篇 (⑩~⑲) が事例研究, 残る1篇 (②) は文献展望である。①は1980年代から現在に至るまでの議論を対象とし, 最初の10年間は利用者のニーズと利用者へのサービス中心であり, 最近の10年はその問題よりも予算の節約と組織問題の解決に焦点が当てられつつあると述べている。②は20年間の主要論文の文献展望によりこの問題の考え方についての進化を探っている。③は高等教育, コンピュータ, 図書館の進化がそれらを統括するための最高情報責任者の設置をもたらしたとしている。④から⑦までは様々な問題を理解するための概念的な枠組みを提供しようとしている。統合組織の評価, 業務の重複, 統合の理由と方法, 小規模大学における人と組織の結びつき, 最高情報責任者の必要性などの問題が扱われている。⑩から⑲までの事例研究は

ほとんどが異なるバックグラウンドを持つ著者による共著の形をとっているが、それはこの問題の多様性を明確に示しているものといえよう。⑩から⑬は図書館とコンピュータ・センターが統合した事例（トリニティ・カレッジ、カセージ・カレッジ、コネティカット・カレッジ、サウス・カロライナ大学）の紹介である。⑭から⑯（ウェイク・フォレスト大学、ルイジアナ州立大学、モンタナ大学）は様々な組織レベルで連携を行い、成功の程度もまちまちなコンピュータ・センターと図書館の関係を扱っている。⑰は移行を急ぎすぎて失敗したゲディスバーク・カレッジの事例を分析している。⑱はある程度うまくいっているトロイ州立大学の途中の報告である。⑲は大規模コミュニティ・カレッジであるウォシュトノー・コミュニティ・カレッジにおける統合の試みの紹介である。⑳は簡潔なまとめも兼ねており、図書館員と技術者が新しい学習環境を創造するために相互に支援すべきであると述べている。

本書はアメリカの大学を対象としているのでイギリスの事例についての言及がほとんどない。イギリスでは1980年代末から30以上の大学で情報サービスの面で図書館とコンピュータ・センターの集約（Convergence）が進んでいる。1992年に学制改革によりPolytechnicsがUniversityとなったが、これらの大学では図書館とコンピュータサービス部門が合体し、情報メディアセンターになったところが多いようである。アメリカとイギリスにおける図書館とコンピュータ・センターの集約についての1980年から1990年代末までの文献展望をSutton<sup>4)</sup>が行っている。また、Sutton<sup>5)</sup>はイギリスの6つ大学における図書館とコンピュータ・センターの統合についての事例研究に基づき図書館とコンピュータ・センターとの統合モデル、統合の要因、スタッフの問題を分析し、統合のためのチェックリストの提案を行っている。

我が国では1990年代から私立大学を中心としてメディアセンターや学術情報センターという名称の下に大学図書館とコンピュータ・センターの統合が行われているが、個別の紹介記事に留まり、

統合の効果や問題点などについて包括的な調査や分析はまだ十分ではないようである<sup>6)</sup>。最近、国立大学の7つの大型計算機センターが情報基盤センター、サイバーメディアセンター、情報連携基盤センター等に転換したが、その中には電子図書館の研究開発を行う部門が含まれているところが多い。これは大学図書館とコンピュータ・センターとの統合の新しい形態とってよい。本書が刊行されて3年が経過したが、我が国における大学図書館とコンピュータ・センターの統合についての本格的な調査研究が行われることを期待したい。

#### 注

- 1) ここでは原書の表題に合わせて「コンピュータ・センター」という用語を使っているが、「情報処理関連施設」と意味は同じである。
- 2) Hardesty, Larry, ed. Books, Bytes, and Bridges: Libraries and Computer Centers in Academic Institutions. Chicago, American Library Association, 2000, 220p. (ISBN 0-8349-0771-7)
- 3) Schwartz, Charles A., ed. "Restructuring Academic Library: Organizational Development in the Wake of Technological Change". Chicago, Association of College and Research Libraries, 1997, 289p. (ACRL Publications in Librarianship no. 49), (ISBN 0-8389-3478-1)
- 4) Sutton, Alison. "Convergence: A Review of Literature". Achieving Cultural Change in Networked Libraries. Reid, Bruce J. and Foster, William, ed. Aldershot, Hampshire, Gower, 2000, p. 63-75. (ISBN 0-560-08200-4)
- 5) Sutton, Alison. "Technical Convergence and the Response of the Academic Institution". Achieving Cultural Change in Networked Libraries. Reid, Bruce J. and Foster, William, ed. Aldershot, Hampshire, Gower, 2000, p. 77-104. (ISBN 0-560-08200-4)
- 6) 谷澤滋生：大学メディア基盤センターの情報提供活動。薬学図書館. 47(3), 2002, p. 221-228.

#### 付 記

評者は平成11年4月から平成14年3月まで名古屋大学附属図書館に在職し、情報連携基盤センターの概算要求に関わりを持った。その際に諸外国の事情を調査するために図書館とコンピュータ・センターの統合に関連する欧米の文献を収集した。この図書もその一環として収集したものである。遅ればせながら、この機会に文献の入手に当たってお世話になった平岡博氏（筑波大学図書館部情報システム課、現放送大学附属図書館）と名古屋大学附属図書館情報サービス課相互利用掛の皆様へ感謝します。